

挨拶だけで喜ぶ、淋しい高齢者もいる

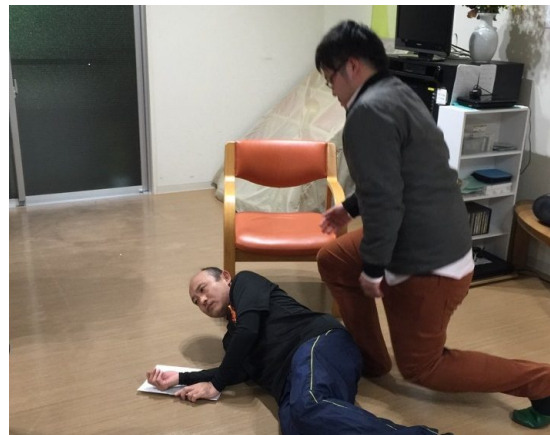
[あとで読む](#)

【尊厳ある介護②】追い詰められていた時に知った「介護の仕事」の喜び

公開日：2017/12/03 (未分類)

里村 佳子 (社会福祉法人呉ハレルヤ会呉
ベタニアホーム統括施設長)

「おはようございます」とデイサービスの利用者渡辺安子さん(仮名 80)に挨拶をしたら、急に涙ぐまれました。「なにか失礼なことしましたか」とお聞きすると、「家でずっと一人だったから、3日ぶりに声をかけてもらって嬉しくて」とおっしゃいました。挨拶をただで喜んで



事故予防研修 (里村氏提供)

で下さる淋しい高齢者がいるのを知ったのは、介護の現場にとびこんで間もなくでした。

私は、尊敬する恩師の誘いで知識も経験ありませんでしたが、福祉介護の仕事に就きました。利用者の人生の最後の時を支える大切な仕事なので、愛のあるケアをしたいと意気込んで転職したのですが、それがいかに安易な決断だと分かるには、時間がかかりませんでした。

多くの社会福祉法人は、行政や施設経験者などが中心となって施設を創設するのですが、私たちは経験者といえばと栄養士と介護スタッフ数名でした。すべてが初めてで、何もかも手探りだったのです。

介護保険制度が導入される前でしたが、法的理解、書類作成、介護実技など側において教えてくれる人がおらず、遅くまで仕事をするのですがはかどらず、一人施設に残って泣いていました。

その上家に帰っても、認知症の知識どころか認知症の人と接したことがない私

は、認知症利用者のさっき言ったことを忘れて繰り返される「ごはんを食べていないの」という言葉が耳から離れず、精神的に追いつめられていきました。そんな時に、挨拶で涙ぐまれた渡辺さんと出会い、介護の仕事の重みと喜びを知ったのでした。

あれからいろいろありましたが、今では私たちのグループホームは、利用者の終末期の看取り介護に取り組んでいます。利用者の吉谷久美さん(仮名 91)の家族から病院ではなくて、ここの施設で母の最後は迎えさせたいという強い希望がきっかけです。

グループホームには、嘱託医や看護師はいますが、常にいるわけではありません。そのため、スタッフの看取り介護への不安は強かったのですが、最後の時をどのように対応するか、嘱託医、看護師、家族と一緒に何度も話し合いをしてその時に備えました。

そして、最後の時、家族とスタッフと一緒に吉谷さんを看取ることができました。眠るように逝かれた吉谷さんに付き添った家族から「ここの施設にいたから、母は幸せだった。ありがとうございます」と何度も言われました。

関わったスタッフの心労は大きかったと思いますが、「吉谷さんの最後の時に立ち合わせていただき、ありがとうございます」と言ったスタッフの言葉を聞いて、私は胸があつくなりました。自分の親族の死にも立ち会ったことのない若いスタッフが、看取り介護を通して人間的にも随分成長したように見えました。

このように介護の仕事は、強い緊張感や不安を強いられる場面がありますが、感謝をいっぱいいただくこともあります。感謝だけではありません。感動もあります。

ある時、認知症を患っている川辺真子さん(仮名 83)の大きな叫び声か浴室の方から聞こえてきました。あわてて行ってみると、川辺さんが「怖い。怖い。風呂には入らん」と言ってスタッフの腕をつかんでいました。スタッフは二人がかりで、2週間入浴していない川辺さんの身体の清潔を考え、風呂に入らざるよう一生懸命説得をしていたのです。

私は、川辺さんの側に行って、目を見て呼吸と感情を合わせて「怖かったのですね」と抱きしめました。しばらく抱き合っていたのですが、川辺さんは、私の背中にまわしていた腕をはずし私の腕を持って「女は強くないといけん。強く生きていこうね」と言われたのです。私は、思わず「はい」と答えました。結局、川辺さんはその日は入浴されませんでした。次の日その言葉どおり「強い女」なって入浴をされました。

利用者を抱きしめたつもりが抱きしめられ、慰めたつもりが慰められたのです。

私は、強い女になれる自信はありませんが、困難や試練があったとしても乗り越える勇気がわいてきました。

だから、介護の仕事はやめられないのです。

<この連載は毎週水曜日に掲載します>

(注)事例は個人が特定されないよう倫理的配慮をしています。

続報リクエスト

マイリストに追加

以下の記事がお勧めです

- > [里村 佳子氏のバックナンバー](#)
- > [フリン氏の捜査協力、導火線の火が爆弾に迫る](#)
- > [確かにLINEでは絵文字でいいが](#)
- > [フランスの2大女優が描く、愛と生命の厳粛さ](#)
- > [退位と憲法改正の微妙な関係](#)

プロフィール

最近の投稿



里村 佳子(社会福祉法人呉ハレルヤ会呉ベタニアホーム統括施設長)

法政大学大学院イノベーションマネジメント（MBA）卒業、広島国際大学臨床教授、前法政大学大学院客員教授、広島県認知症介護指導者、広島県精神医療審査会委員、呉市介護認定審査会委員。ケアハウス、デイサービス、サービス付高齢者住宅、小規模多機能ホーム、グループホーム、居宅介護事業所などの複数施設の担当理事。今年10月に東京都杉並区の荻窪で訪問看護ステーション「ユアネーム」を開設予定。

News Socraは、記者30年、新聞協会賞受賞の元日経新聞の土屋直也が編集長をしています。ネットで本当のジャーナリズムを盛り上げたいと思い、ベテランライターによる独自記事とセレクト記事を掲載しています。

[トップへ](#)

アプリでもご覧になれます



いいね! 0

シェア 0

ツイート

G+

LINE LINEで送る

[この記事編集](#)

ソクラとは

[FAQ](#)

編集長プロフィール

[利用規約](#)

利用案内

[プライバシーポリシー](#)

著作権について

[特定商取引法に基づく表示](#)

メーカーソクラ

[お問い合わせ](#)

お知らせ一覧

[コラムニストプロフィール](#)

Copyright © News Socra, Ltd. All rights reserved